

不登校の要因と傾向

取組の方向性

学校に行きたいけど行けない

学校に行きたくない

経済的困窮や家庭の養育環境から不登校につながる傾向がある

経済的な厳しさ等から養育放任となり、学校へ行く環境が整わない

保護者が過保護のため、ちょっとしたことでも学校を欠席させる

友人関係の悩み、学業不振から不登校になる要因が高い

友人と気まずくなり、仲直りできずにいるため、学校へ行きづらい

進級や進学したクラスや学校になかなか馴染めない

学校には行きたいが、部活動の上下関係が苦手で、考えると憂鬱になる

勉強がわからなくなり、苦痛だ

個人の要因として不安や無気力の傾向が多く見られるが、他の要因と複合的に関連しており、本人や保護者も理由がはっきりしないことも多い

人前に出ると過度に緊張して疲れる

もともと人と関わるのが苦手で人に会いたくない

自分のやりたいことが見つからない

学校よりネット・ゲームに興味がある

※不登校の要因（きっかけ）のうち、上位要因
 ①家庭の状況 31%
 ②友人関係 26%
 ③学業不振 19%
 H29 文科省問題行動等調査より

① 新たな不登校が生じないよう、学校生活に支障がない進学の進め方

② 学校における進級の進め方

③ 生徒が継続的に学び続ける支援

④ 教職員および支援者の質と量の確保

⑤ 支援関係の充実

⑥ 不登校児童生徒を抱える家庭への支援

未然防止

学校に登校している状況

- ・児童生徒にとって居場所と感じられる安心安全な学校
- ・児童生徒が主体的に取り組む活動を通じ、自らが「絆」を感じ取り、紡いでいける学校

NEW チーム支援・切れ目のない支援の強化 【方向性①②④】

【早期の情報共有】 ・統合型校務支援システムを活用した気づき情報の共有

魅力ある学校づくり【方向性①②③⑥】

- 【安心・安全な学級、学校づくり】
 - ・学校経営に位置づけた生徒指導の実践
 - ・いじめや暴力行為を許さない学級づくり
 - ・中学入学後早い時期の仲間づくり合宿
- 【学ぶ意欲を育む学習指導の充実】
 - ・「わかる授業」の実施、補充指導の充実
 - ・体験活動を通じて、生き方や夢、目的意識を考える指導
- 【学力の定着・向上】
 - ・基礎学力の定着
 - ・「わかる授業」の実施（授業の質の向上）
 - ・放課後等学習支援の充実
- 【特別活動の充実】
 - ・学級活動、児童会・生徒会活動、学校行事を通じた人間形成
 - ・自然体験型学習による他者と協働する力の育成
- 【校種間連携】
 - ・自己有用感を高める異学年交流活動の拡充
 - ・校種間で情報共有（中1学級編成への小学校教員の参画等）
- 【地域連携の推進】
 - ・地域と連携した特色ある教育活動の充実
 - ・コミュニティ・スクールと地域学校協働本部との一体的な取組の充実
 - ・放課後学習支援の充実
 - ・良好な親子関係を築くために『家庭で取り組む 高知の道徳』の活用

支援者のスキルアップ【方向性④⑤】

- 【支援者の支援スキルの向上】
 - ・SCを活用した校内および教育支援センター等への研修
 - ・教育支援センター連絡協議会

【教職員の人権意識の醸成】

- ・人権課題や開発的生徒指導に関する研修

初期対応

潜在期	初期
不登校のリスクが潜在化している状況 ・学業の不振 ・人との交流が苦手 ・情緒的混乱 ・厳しい家庭環境 など	登校しづり等が見られる状況 ・起床時間が遅くなる ・朝だけ体調不良になる ・不安に襲われている など

チーム支援・切れ目のない支援の強化 【方向性①②④】

【校内支援会の強化】

- ・個別支援シート、支援リストの活用
- ・学年間、校種間の情報共有と引継ぎの徹底
- ・SC、SSWの資質向上、配置の拡充
- ・少しでもリスクがある児童生徒への早期支援の実現（SC・SSWによる授業観察等）

NEW 心の教育センターの機能強化

地理的不便さの克服

相談支援の機能を持ったサテライトセンターの東部・西部地区への設置の検討

学校全体の指導体制の充実 【方向性②③④⑤⑥】

- 【コーディネーターの育成】
 - ・校内外のコーディネーター的役割を果たす不登校対応担当の明確化
- 【個に応じた継続的な支援】
 - ・養護教諭の役割と保健室等の「居場所」の充実
 - ・個別支援シートに基づく組織的かつ継続的な支援
 - ・「不登校の予防・対応のために」の改訂と活用
 - ・児童生徒支援加配教員の活用の充実
- 【教職員の資質向上】
 - ・「不登校対策チーム」の訪問支援によるチーム支援の推進
 - ・教職員研修（児童生徒理解、学級経営力向上等）の充実
- 【教職員の資質向上に関する内容】
 - ・教員が学び合う仕組みの構築（「タテ持ち型」「教科間連携型」「タテ持ち・教科間連携型」）
 - ・若年教員等育成のためのメンター制の導入
- 【関係機関や家庭等との連携】
 - ・教育支援センター等関係機関への確実なつなぎ
 - ・家庭訪問、学習状況の把握、評価の工夫等継続的な関わり

包括的な家庭支援【方向性⑤⑥】

・SSW等による情報収集の強化 ・医療・福祉等関係機関との連携の強化 ・専門家等と連携した個に応じた支援内容の検討・充実

自立支援

本格期	回復期	始動期
登校困難な状態が本格化している状況 ・学校にほとんど行かない ・昼夜逆転した生活 ・ネットやゲームに没頭 ・生活習慣が乱れる など	心身のエネルギーがたまり始めた状況 ・親しい人と話せる ・暇や退屈を感じている ・学校や社会への不安や恐怖もある など	外部とつながろうとする意欲を持ち始めた状態 ・教育支援センターや別室登校ができる ・「〇〇したい」という意見を言う など

個に応じた支援環境の充実【方向性③⑤】

- 【個に応じた継続的な支援】
 - ・別室や保健室登校に対する体制と環境の整備
 - ・青少年教育施設における野外体験を通じた支援

多様な教育機会の確保【方向性③⑤】

自立支援の強化

- 【教育支援センターの機能強化】
 - ・アウトリーチ型配置SCの活用
 - ・ICTを活用した学習支援

【夜間中学における受け入れ】 **NEW**

- ・学び直しの場として形式卒業者の受け入れ
- ・自主夜間中学の開設支援

【フリースクール等民間施設との関係構築】

- ・連絡協議会の実施

【その他】

- ・定時制高等学校を活用した学習支援の検討（例）秋田県

社会的自立への支援【方向性⑤⑥】

【若者サポートステーションでの支援】

- ・相談など就学・就労に向けた支援

保護者・家庭への支援の充実【方向性⑥】

【心理的不安の軽減】

- ・保護者のつとへの実施
- ・相談体制の強化

【不登校理解の促進】

- ・PTA、家庭への研修の実施